平成 29 年度　八尾市立歴史民俗資料館運営委員会会議(概要)

開催日時：平成 29 年７月７日（木）14：30～16:00
開催場所：八尾市立高安コミュニティセンター　２階会議室
出席者：委員　学識経験者４名（欠席者１名）　市民代表２名　その他関係者２名
事務局：生涯学習担当部長、生涯学習担当次長、教育総務部　文化財課職員３名（課長 ・課長補佐・係員）
指定管理者：(公財)八尾市文化財調査研究会（八尾市立歴史民俗資料館館長・係長）

（以下の案件について委員長進行のもと、審議が行われた。）

＜平成 28 年度の事業報告について＞

※事務局より　平成 28 年度八尾市立歴史民俗資料館管理運営計画のⅠ　期間、Ⅱ　施設の利用状況、について説明

委員長：ただいまの報告のなかで、何かご意見等のある委員はおられますか。

E 委員：アンケートを実施されたなかの資料館の活動を知った理由の「その他」はどういうものでしょうか。

係長：その他の理由としては施設カレンダーや関西考古学の日、学校授業で知ったという場合が多いとみられます。

委員長：アンケートは毎年行われていますか。

係長：毎年 行われています。

委員長：その他に複数回答があればその項目を入れたほうがよいと思います。

事務局：わかりました。

F 委員：外国人の方が１%だが外国人観光客が増加しているが利用は増えていますか。英語表記が必要とみられるが資料館としての方向性はどうでしょうか。

館長：英語表記が必要とは考えるが、なかなか準備できないのが現状です。外国人は大阪経済法科大学の留学生が大学の課題に資料館見学が入っていることもあり、200 名近くが来館しています。

委員長：アンケートに国籍を問うてもよいのではないでしょうか。英語表記に加えて中国語やハングルの表記をする時の基礎数を知る手段となり、地域のアイデンティティにもなると思います。

事務局：検討いたします。

※事務局よりⅢ　事業　２　調査・研究に関する業務　３　文化財等の収集・保存・整理・管理業務について説明

委員長：市民ロビー展示ができなかった理由は何でしょうか。

事務局：選挙のため市民ロビー借用ができず、中止となりました。

B 委員：特別展について平成 28 年度に比べて平成 27 年度の特別展は入館者が多いが特別な理由があったのでしょうか。

館長：常光寺をテーマに春に特別展をしました。大坂夏の陣のブームもあり、府をあげて取組みがされ、広報も大々的にされたということがあります。

委員長：タイムリーな展示は重要だと思います。由義寺の現地説明会についてはどう取り組まれたのでしょうか。

館長：現地説明会ののちに速報展を行い、説明会に参加できない方が来られました。新聞にも掲載されたので資料館を知ってもらうチャンスとして取組みました。

事務局：新聞発表から現地説明会まで期間が短く、説明会に参加できなかった方が多く来られました。

C 委員：由義寺跡について外環状線を挟んで東側も調査されているが、一連のものなでしょうか。

事務局：奈良時代の建物で同じ時代の遺物が出土しており、由義寺・由義宮の関連のものと考えられます。

C 委員：由義寺に次いで由義宮と期待が膨らむ成果です。

委員長：史跡指定に向けてどのようなイメージでしょうか。

事務局：塔基壇を中心にできるだけ広い範囲で考えております。決まりましたら早い段階でご報告いたします。

委員長：2000 人以上の参加者が現地説明会にあったことを行政側でもきっちり受け止めて対応して下さい。

A 委員：八尾の人と話す機会があった折に小学校で八尾の歴史や暮らし、大和川の付け替え、昔の道具について学んだとても良い思い出があるとのことで、これはとても素晴らしいと思います。大阪府下でも貴重な取り組みではないかと考えられます。

C 委員：小学３年生で地域を学ぶという授業があり、「私たちの八尾市」という本があり、毎年 4 年生が大和川の元々の幅を手をつないで測るとか、二俣を訪ねるとかの学習をしており、八尾は地域学習が進んでいる方だと思います。小学校 6 年もフィールドワークをしています。

A 委員：とても重要だと思います。人間の手を加えないと動かない道具であると教えることが大切だと思います。

C 委員：子どもたちはたとえば昔のアイロンなどを触ると大変驚きものすごく興味を持ちます。

委員長：各自治体はそれぞれ大きな目玉として地域学習がされていると思います。学校教育と社会教育だがここ 20～30 年は特に力を入れていました。それまでは埋蔵文化財の調査に忙しく手がまわらなかった側面があります。3～4 年生で地域学習は良いことだと思います。このくらいの年齢だと五感でわかってもらうことができます。

C 委員：八尾市には高安千塚古墳群、八尾市立歴史民俗資料館、心合寺山古墳があり、そこの地域になにがあるかが中心となります。大和川は小学生はみんなが知らなくてはならないと思います。

委員長：文化財は地域のオリジナルなので郷土愛につながる学校教育でつないでいただければよいと思います。

A 委員：原始機については学術上は何千年も淘汰されたのちのものなので本当の原始機とはいえないので、名称を「コシバタ」等にしていただければと思います。

館長：原始機という名称が定着しており、「コシバタ」だと人がくるかという問題があります。担当者と協議します。

A 委員：松阪木綿の話をすると河内木綿のことが話題になります。資料館学芸員は河内木綿の研究に大変取り組んでおられ評価できます。河内木綿は全国的にも一目おかれているので続けて研究してもらいたいです。

館長：木綿流通についての展示・研究を進めていきます。河内木綿は産業としては明治の初めには終わっています。大阪経済法科大学で山麓で綿作りなどのプロジェクトはあるが、織手がいないという問題があります。館活動では限界があるのでオール八尾で取り組めたらと思います。資料館だけでは難しい面があります。

A 委員：以前に河内木綿館構想はあったが、なくなったのは残念です。

委員長：高槻は寒天産業がさかんだったが小説や舞台で取り上げられて再認識されました。学術目的と文化財用語は定着すると新しい用語が提唱されてもなかなか浸透しないので、河内木綿を舞台とし

た小説や舞台などで普及していければよいと思います。

D 委員：観光協会も 4 年目ですが産業政策に重点を置いています。もっと深く文化財についてスタッフにも知ってもらう必要を感じています。

B 委員：資料館展示でポスターをもっと掲示し観光協会にもおいてほしいです。

委員長：千塚サミットは何時間されましたか。

係長：13 時から 17 時までで 1 人 25 分事例報告してもらい、10 分休憩を経てシンポジウムで柏原市の安村館長にコーディネートしてもらいました。

E 委員：どのような研究をなされているか研究紀要がまとめられておりわかりやすいです。講座などで発表するには調査・研究が必要だがそのような費用はどうされていますか。

館長：調査研究は業務の中で行っていますが、館報にまとめているように古文書講座などを多くしており週１～２回は資料作成、何かと広く調査・研究しております。

委員長：千塚サミットの場所がコミセンで半日というのはこれだけの講師をそろえて少しもったいないのではないでしょうか。

館長：コンパクトに話をしてもらいました。幅広く地域を紹介してもらい、群集墳が地域により異なり、個性的であることがわかり、面白いシンポジウムができました。時間的にはお客さんの負担を考えるとこのくらいかと考えています。

委員長：上手に宣伝して参加人数を増やせればよいと思います。

館長:コミセンの大会議室は定員 60 名ですが 100 名以上の参加があり部屋がいっぱいとなりまして、由義寺関連講演では机をなくして 150 人がぎりぎりでした。やはり群集墳関連の特別展をしていたので展示を見てもらうという意味ではコミセンとなり、遠くでは展示をみてもらうことにつながらないということがあります。広い部屋が近くにあれば多人数でできるのですが。

委員長：特別展を見込むのであれば教育委員会のバックアップで、大きな会場で良い企画をされればそれだけのキャパを用意できるのではないでしょうか。

館長：100 名を超えた場合、別の会場でという方法もあるが、展示との関係を考えると難しいです。

委員長：事業に合わせてどれだけのハードを用意するか、ハードが小さければそれだけの答えしかこなくなります。大きな受け皿があれば八尾市市内外からもこられると思います。

事務局：会場に関しては工夫できるか思います。昨年は市教委でも資料館の千塚サミットの時期に高安千塚の講演会をしましたが、資料館は広い視点からされ、市教委は調査担当による報告会でしたので、対比してできました。大変評判が良かったので、今後も資料館と教育委員会で連携をとりながら進めたいと思っております。

委員長：高安千塚が国史跡指定され史跡を真に市民のものとし、大切に受け継いでいくには、市民の参加、協力が必要で、講演会等は効果は大きいとみられます。キャパが見込まれるのであれば、大きな会場でしたほうがよいと思います。史跡指定し市民に保護意識が共有されていくようにしてください。由義寺も今後がんばっていっていただきたいです。

委員長：他にないでしょうか。なければこれで委員会を閉会いたします。

資料館・事務局：　貴重な意見をありがとうございました。